

「銘仙着物の華やき」

和モダン

2025年
9月29日(月)
▶11月30日(日)

【前期展示】

9/29(月)～11/1(土)

【後期展示】

11/3(月)～11/30(日)

※前期と後期で大幅な展示替えを行います。

入館
無料

●開館時間

平日・祝日(10/13、11/3、11/24) 10:00～17:00
土曜 10:00～13:00(ただし10/18は17時まで開館)

●休館日

日曜(ただし10/19、11/30は17時まで開館)
10/16・10/17・10/20

※休館日、開館時間に変更になる場合があります。詳しくは当館のウェブサイトをご覧ください。

●アクセス

- ・東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」駅下車 A8 出口から徒歩1分
- ・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車 1b 出口から徒歩3分

【お問い合わせ】

- ・03-3237-2665
- ・<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/muse/>

共立女子大学博物館
Kyoritsu Women's University Museum

ごあいさつ

銘仙とは、玉糸やくず糸で平織に織った絹織物で、江戸時代には紬などとともに「太織」とも呼ばれ、江戸時代以来、日常的な衣服として用いられました。銘仙の柄模様も初期においては単色が主流でしたが、明治時代の後半から化学染料が広く普及し、さらに大正時代には自由に色が染められるようになりました。このように、時代が下るにつれて技法も多様化したことで、銘仙の模様表現や色彩は華やかなものになりました。ほかの絹製の着物とは趣の異なる銘仙着物は、現代でもアンティーク着物として人気を博しています。本展覧会では、大正時代から昭和時代にかけて盛んに生産された華やかでモダンなデザインの銘仙着物の世界をお楽しみください。



縹地紙風船模様銘仙着物
昭和時代・20世紀



黒縹子地薔薇花瓶猫模様ベント帯
昭和時代・20世紀



紺地薔薇模様銘仙羽織
昭和時代・20世紀



染地薔薇模様銘仙着物
昭和時代・20世紀

イベント

【講演会】

演 題：「近代女性の装い 着物の種類とその使い分け」
講 師：古川咲氏（共立女子大学家政学部被服学科専任講師）
開催日時：10月25日（土）14:00～
定 員：50名（事前予約制）
申込方法：当館ウェブサイト、またはQRコードから
定員になり次第、締め切らせていただきます。
詳細および注意事項は当館ウェブサイトを必ずご確認ください。



講演会申込はこちらから→

【ギャラリートーク】

開催日時：① 10月9日（木）12:50～13:10
② 11月18日（火）12:50～13:10
当館学芸員が作品の解説をします。
事前申込不要。開始時刻に展示室へお集まりください。

アクセス

- ・東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」駅下車 A8 出口から徒歩1分
- ・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車1b 出口から徒歩3分



Instagram



X